

第9回鏡石町議会定例会

平成28年度各会計歳入歳出決算等を審議する町議会9月定例会が開催され、提出された22議案の内、21件が可決、1件が否決されました。ここでは、議会に提出された議案の内容をお知らせします。

一般会計含む11会計 決算を認定

第9回町議会定例会が9月4日(月)から15日(金)までの12日間の日程で開催されました。

今回の9月定例会では前年度の各会計の決算が審議され、すべての会計で決算認定されました。決算の内容は、広報かがみいし11月号でお知らせします。

今回の議会では、そのほか特別功労表彰につき同意を求めることについて、職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例の制定について、平成28年度鏡石町上水道事業会計未処分利益剰余金の処分について、鏡石町町民プール機械設備改修工事請負契約の締結について、などの議案が議決されました。

一般会計補正予算は1億2,956万9千円

一般会計や7つの特別会計の補正予算が議決され、一般会計は1億2,956万9千円増額されました。これにより、一般会計予算の合計は61億4,391万6千円となりました。

教育委員及び固定資産評価審査委員を選任

教育委員会委員として藤島絵美さん(南町)の任命について同意を求め、可決されました。藤島委員の任期は、平成29年10月1日から4年間で

平成28年度各会計決算状況

単位：千円

会計区分	歳入	歳出	
一般会計	6,307,970	6,188,318	
国民健康保険特別会計	1,705,802	1,634,882	
後期高齢者医療特別会計	97,005	96,887	
介護保険特別会計	930,768	914,047	
土地取得事業特別会計	30,054	30,000	
工業団地事業特別会計	47,362	46,653	
鏡石駅東第1土地区画整理事業特別会計	159,734	150,813	
育英資金貸付費特別会計	6,164	6,144	
公共下水道事業特別会計	460,621	456,702	
農業集落排水事業特別会計	65,031	64,329	
小計	9,810,511	9,588,775	
上水道事業会計	収益的	260,818	213,297
	資本的	117,870	187,181
	計	378,688	400,478
合計	10,189,199	9,989,253	



藤島 絵美 さん

また、固定資産評価審査委員会委員として、吉田悦郎さん(成田)と関根英司さん(笠石原町)が再任されました。両委員の任期は、平成29年10月1日から3年間で

町長説明要旨

今年度の主な主要事業の進捗状況ですが、「道路等側溝堆積物撤去・処理事業」として、今年度は鏡石1区・2区・3区を実施します。また、久来石地区仮置場からの中間貯蔵施設への搬出業務は、8月末から順調に進んでおり、9月末の完了を予定しています。

昨年度から本格的に運用している「コンビニ収納業務」は、昨年度税額で約1億1千2百万円が納税されました。町制施行55周年記念事業である「文化講演会」を、11月5日に須賀川アリーナで講師に杉良太郎氏を迎えて開催します。多くの参加者をお迎えできるように入場整理券の販売

に努めて参ります。高齢者福祉として、第8期高齢者保健福祉計画及び第7期介護保険事業計画(平成30年度から平成32年度)の策定作業を進めております。また、障がい者福祉としては、鏡石町障がい者計画(平成30年度から平成35年度)及び第5期障がい福祉計画(平成30年度から平成32年度)の策定作業

を進めております。「鏡石まちの駅設置事業」については、改修工事の請負業者を決定し、来年4月以降の開設に向け準備を進めて参ります。その他、農地再生プロジェクト事業や高久田地区基盤整備調査業務などを進め、第5次総合計画の実現に向け取り組んで参ります。

第19回

少年の主張鏡石町大会

今月号では9月号に引き続き、8月5日(土)に開催された第19回少年の主張鏡石町大会の中学生の部で最優秀賞を受賞した作品をご紹介します。

ともに生きる

二年 姫路 涼花

「二十四時間テレビ、知ってるか。」

先生の話は、私の障がい者の方に対する思いを大きく変えました。

「あの番組で、感動したりすると思うんだけど、あの別の番組では、普通の人

壇上で話す姫路さん



がやって何でもないことを、障がい者がやることで視聴者を感動させるのは、差別だと言っていったんだ。みんなはどう思う。」

自分は、テレビを見ていてどう思っていたのだろう。「かわいそう。」と、同情して見てはいなかっただろう。なんとなく先生の言葉が、私の気持ちを言い当てている様で、私はとても苦しくなりました。

すでに亡くなっています。が、大分に住んでいた私の祖父は、片足の膝から下が無いという障がいをもっていました。顔を合わせるのには、年に一度くらいでしたが、笑うと目じりの横にしわを作った優しい顔になる祖父が私は、大好きでした。

しかし、私は、祖父と過ごした時間をあまり覚えていな

いのです。子どもだったため、障がい者である祖父とどう接していいのかわからず、祖父に遠慮し、自ら壁を作っていたように思います。祖父の家に行くと、祖父は部屋にある祖父専用の席で、一人でテレビをいつも見ていました。私がそばに行くと、「涼花、リモコン取って。」と申し訳なさそうに、小さい声で頼まれた事を今も思い出します。どうして一緒にテレビを見たか、もつとたくさん話をしたりしなかったのか。

今は後悔でいっぱいですが、私の心にあった壁。自分だったらどうだろう。最初は、放っておいてほしいと思ってもうかもしれません。そっとしておいてほしいと思うかも知れません。でも、やっぱり家族や友達とたくさん話したいと思うし、いろいろな所と一緒に歩いて、楽しい時は、一緒に笑い、悲しい時には一緒に泣いて、たくさん思い出を作りたい。そのためにも、みんなに普通に接してほしいと願うでしょう。

でも、一人で出来ないときには、少し手助けしてほしいと

も思います。そしてそれは、同情やあわれみではなく、お年寄りや妊婦さんに電車で席を譲るように、決して偏見ではなく、自然な優しさや思いやりであってほしいと願います。

テレビを見た先生の話は、障がいを持った人が特別な人ではなく、障がいがある人もない人も差別なく、一緒に暮らしていくことの大切さを教えて下さいました。また、障がいを持つ方と、普通に話し、普通に接し、普通の生活を送る難しさを、私の心の壁として祖父が教えてくれたのかも少しありません。

私は今、医療関係の仕事に就きたいと考えています。もし、その仕事に就いたら、障がいを持つ方と関わっていくことになりそうです。そんな中で私は、祖父に対して壁を作ってしまった自分のことを教訓として、どんな人にも、自然に接していきけるようにしたいです。

私はお葬式の時、祖父が集めていたひょうたんの一つをもらいました。そのひょうたんは今、私のベッドに飾って



中学生の部に出場した皆さん

あります。そのひょうたんを見るたびに祖父の笑顔と、祖父とあまり話が出来なかった苦い思い出を思い出します。

今、私たちの周りでも、ノーマライゼーションやユニバーサルデザインといった、障がい者の方が社会参加しやすいように様々な取り組みがなされてきています。でも、私は、障がい者の方が、安心して社会参加できるようにするために一番大切なことは、私たち自身の心の壁を取り除くことだと思っています。同じ学校で、同じ社会で「ともに生きていくのだ。」という気持ちを持つことが大切なことだと私は思っています。